須影小【タブレットを導入した】授業改善八策評価シート

資料

※第１０改訂版

実施日　　月　　日(　　)	教科：	クラス：	授業者： 参観者：

単元「　　」

ねらい

(ねらいに迫るためにどの場面でどのようにタブレットを活用したか)

□興味関心の創出　□創作活動による思考表現の向上
□体験の想起・代行による理解の深化
□児童による説明・発表の支援
□典型例の提示による知識の定着
□児童同士の伝え合いによる思考の深化

☑をいれる

【タブレットで活用した機能】○をつける

形態　教師１台　／　グループ１台　／　１人１台

機能　カメラ機能・アプリ（　　）
インターネット（教育動画）　・
その他（　　）

ICT 活用場面　○をつける

A1：教師による教材の提示　B1：個に応じる学習
B2：調査活動　B3：思考を深める学習
B4：表現・製作　B5：家庭学習　C1：発表・話し合い
C2：協働での意見整理　C３：協働製作　C5：遠隔

【主体的･協働的な学び】への授業改善八策 平成28年3月改定	達成度(○をつける) 80％以上	50％未満
1　本時に活用できる既習事項の確認や復習をすること		
2　ねらいを明確にし、ねらいに迫る課題を明示すること		
3　課題解決の時間を確保し、子供の解答パターンについて S･A･B･C の4ランク程度を予想して、その扱いについて検討しておくこと(A の子への手だて、C の子への手だてを用意する)		
4　授業のねらいに適したICT(タブレット端末)の活用(機器･ソフト･アプリ･機能　等)を推進し、効果的な図、写真、絵、文字の提示をすることですべての子供たちの理解の共有化を図ること		
5　理由(根拠)を大切にした「シェアタイム」を位置づけ、事前に、「何を、何のために、どうやって」話し合うのか【視点】をはっきりさせること		
6　先生がまとめを書く前に、子供の言葉で書かせること		
7　時間のコントロールをしながら ICT(タブレット端末)を活用し、限られた時間で学習をまとめること		
8　授業の工夫を行い、子供たちに学習のねらいを達成させること		

歩

【授業評価】

		よい			もう一
主体的な学び達成度	・子供たちが「自ら進んで」、学習を深められたか？	4	3	2	1
協働的な学び達成度	※協働的な場面がないときはつけない ・子供たちが「関わりあいながら」、学習を深められたか？	4	3	2	1
総合的な学び達成度	・その時間に教師が意図したねらいが達成できたか？ ・子供たちが「学習内容を体得・習得・納得」することができたか？	4	3	2	1

○タブレットを導入した授業の効果を選択し、反省点・今後に向けた授業改善の方向性を記録してください。

	効果があった	
	効果がなかった	
	どちらともいえない	